

深川東京 fukagawa tokyo modankan news モダン館だより

共催 **噺 + 話** 2月23日(火)14時～ (開場13時半)

おきがる講座と落語会モダン亭のコラボ

柳家小志ん「抜け雀」 + 龍澤潤「演題にちなんだ話」

予約・当日1,500円(ドリンク代込) 定員:20名

※2月5日(金)から受付開始

主催 **おきがる講座** 2月26日(金)14時～15時半

渋沢栄一ゆかりの人々⑤ 一橋慶喜

※2月16日(火)から受付開始

受講料:500円(コーヒーまたは紅茶つき) 定員:20名(要予約) 講師:龍澤潤(深川東京モダン館)

共催 第386回 **圓橘の会** 2月27日(土)15時～ (開場14時半)

三遊亭圓橘 岡本綺堂の冬の怪談

“臆病者は死ぬまでに何度も死ぬ思いをする”
シェイクスピア『ジュリアス・シーザー』より

予約 2,500円 当日 2,800円 定員:50名

※2月5日(金)から受付開始

他萬丸

※当館の催しものご予約は お電話 03-5639-1776 または info@fukagawatokyo.comまで

2月のカレンダー

月	火	水	木	金	土	日
1 休館日	2 おきがる講座 <small>開催済</small>	3	4	5	6	7
8 休館日	9	10	11	12	13	14 
15 休館日	16	17	18	19	20	21
22 休館日	23 噺 + 話	24	25	26 おきがる講座	27 圓橘の会	28

開館時間 10:00-18:00 (金・土曜日は19時まで)

渋沢栄一と伊藤松宇

しょう う



今年のNHK大河ドラマは、渋沢栄一を題材とした「青天を衝け」です。栄一は明治9年(1876)深川区福住町(現江東区永代)に居を構え、深川区会議長などを歴任するなど、江東区との縁も深い人物です。今回の大河ドラマのタイトルとなった「青天を衝け」は、実家の生業である藍玉の販売のため、内山峡(現長野県佐久市)で詠んだ漢詩の一部、「勢衝青天攘臂躋」から取られたものです。この漢詩に感銘を受け、栄一死後の昭和15年(1940)、内山峡周辺の賛同者たちによって「内山峡之詩巖碑」が建立されました。この碑の除幕式には、栄一の孫渋沢敬三らが招かれますが、そのメンバーの中に伊藤松宇がいました。

松宇は、安政6年(1859)に信濃国小県郡上丸子村(現長野県上田市)の伊藤佐七の次男として誕生し、本名を半次郎といました。佐七は百姓のかたわら染織を営んでおり、栄一の父市郎右衛門とは俳句の交流もありました。その後、明治15年(1882)に簿記と銀行事務を学ぶために上京、父とともに深川福住町の栄一郎を訪れています。そして、同19年に第一銀行に入社し、その後は東京人造肥料株式会社や王子製紙、澁澤倉庫など栄一ゆかりの会社を渡り歩きます。その一方で、正岡子規や岡野知十といった俳人とも交わり、芭蕉の顕彰や古俳書の収集・鑑定にも通じていました。

昭和6年(1931)、深川公園内に園女歌仙桜之碑が建立されますが、松宇はこの建碑の主唱者の一人です。もともとは芭蕉の弟子であった斯波(度会)園女が植えた歌仙桜にちなみ、深川公園内に36種の桜を植え、富岡八幡宮に36首の俳句を奉納する計画でした。36首の俳句がなかなか集まらないことから、俳句から石碑へと変更し、協力者の寄付金を募っています。この時に松宇は、題字を栄一に依頼し、自分は俳句の文字を揮毫します。栄一はこの年に亡くなることから、最晩年の文字となります。松宇も73歳になっていました。

内山峡の碑は松宇82歳の時で、建碑にあたっては顧問をつとめ、栄一の漢詩を説明する案内石碑には松宇の文字が使われています。松宇が亡くなったのは、内山峡の建碑除幕式に参加した3年後の同18年のことです。



園女歌仙桜之碑



園女歌仙桜之碑(栄一揮毫)



(文と写真 深川東京モダン館 龍澤 潤)

●お客様へのお願い

- ・次に該当するお客様のご来場は、ご遠慮いただきますようお願いいたします。
37.5度以上の発熱があるお客様 咳、喉の痛み等の症状があるお客様
過去2週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問歴があるお客様
- ・マスクを着用でないお客様のご入場はご遠慮いただきます。咳エチケットにご協力をお願いいたします。
- ・手洗いと手指消毒にご協力をお願いいたします。
- ・催し物にご参加されるお客様には、氏名・連絡先等を確認させていただく場合がございます。

安全なまちづくり



明治時代以降、江東区の運河沿いには様々な工場が建ち並び近代産業の発祥地として発展してきましたが、大正12年(1923)の関東大震災では大横川から西側の旧深川区が大きな被害を受け、昭和20年(1945)の東京大空襲では東側の旧城東区(亀戸・大島・砂町)も含めた広大な地域(現在の江東区全域)が焼け野原となりました。戦後は北十間川や小名木川・荒川沿岸の工場群が復活しましたが、地下水の過度な汲み上げによる深刻な地盤沈下によって工場移転が進み、跡地には集合住宅が建設されました。江東区の人口の7割が集合住宅に住んでいるとのデータもあるようですが、旧中川沿岸には中小零細企業が集中し、住宅と工場が混在する密集市街地が広がっていました。江東区は昭和44年(1969)に江東開発基本構想を策定し、6年後には都市計画が決定されました。

これに基づいて、住宅・工場等が混在した密集市街地を解消し、避難広場となる公園や不燃高層建築物を整備し、災害に強い安全なまちづくりを行う「亀戸・大島・小松川地区市街地再開発事業」がスタートしました。これが俗にいう亀大小再開発で、開発面積は98.6ha(江戸川区2に対して江東区1の比率)。住宅戸数約8,000戸。計画人口26,000人。避難人口20万人。事業期間は昭和54年(1979)から平成20年(2008)までのおよそ30年間におよぶ壮大なプロジェクトです。関連事業として旧中川環境整備事業(都)、スーパー堤防整備事業(国)、小松川千本桜公園整備事業(江戸川区)、荒川ロックゲートビル「閘門整備事業」(国)が実施された結果、旧中川・荒川周辺は「水と緑豊かな環境にやさしいまち江東区」にふさわしい、あたらしい街に生まれ変わりました。



東大島駅前(1981年12月)
都バスは江戸川区の今井まで通じていた



日本化学工業跡地(1988年10月)
現在の「風の広場」で旧小松川閘門が見える



浅間神社西参道(1994年10月)
社殿と鳥居が富士山の方角を向いており、道路整備のため都電の線路を撤去する工事が進む



小松川の木造民家(1986年11月)
撤去された跡地は広大な避難広場になった



(文と写真 江東区文化観光ガイド 松澤 康夫)

江東区文化観光ガイドによるモダン館周辺のまちあるきツアー(1時間程度、11時・14時出発)は現在中止しております。再開についてはWEBサイトでお知らせいたします。

www.fukagawatokyo.com

貸会議室・多目的スペース

深川東京モダン館では2階の多目的スペースと会議室をお貸し出ししています。ミーティングやイベントを行うスペースなどにご利用ください。

◆会議室(20㎡)

利用日時：開館日時 利用例：社内ミーティング、商談、お花・書道・語学の教室等

◆多目的スペース(80㎡)

利用日時：開館日時 利用例：展示、イベント、社内研修、演劇の公演、講演会、教室等



多目的スペース



会議室

※料金、ご予約（ご利用日の半年前から受付）詳細については、お電話またはメールにてお問い合わせ下さい。

※スクリーン、プロジェクター、マイクなど機器類もご利用いただけますので、ご相談ください。

ガイドブック・お土産品

深川東京モダン館1階では、まちあるきに役立つガイドブックや江東区の文化財ガイドなどを販売しています。

- ・『江東区の文化財』各地域
- ・江東区観光キャラクター コトミちゃんグッズ各種（ぬいぐるみ、缶バッジ カードスタンドほか）
- ・江東区の名所を描いた 絵はがき(水彩・切絵・写真)
- ・Tシャツ
- ・江戸切子
- ・もくレース
- ・深川めしの素
- ・ちくま味噌 甘酒
- ・コースター
- ・深川ゲイシャコーヒー等

コトミちゃんグッズ



ステンレスボトル700円

タオルハンカチ600円

百圓珈琲

1Fカウンターでは100円のコーヒーをご提供しております。ホットコーヒー「小樽」「ベイキャメル」そして「モダン館ブレンド」（しっかり・すっきり）の4種類をご用意しております。まちあるきの休憩時や会社のお昼休み中の一服にどうぞ。

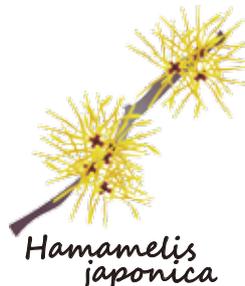


開館日および開館時間

10:00-18:00(金・土曜日は19時まで)

休館日：月曜日

(月曜日が祝日の場合、翌火曜日が休館となります)



Hamamelis japonica

「深川東京モダン館だより」第95号(2021年2月3日)発行 (一社)江東区観光協会 深川東京モダン館 〒135-0048 東京都江東区門前仲町1-19-15 TEL 03-5639-1776 FAX 03-5620-1632 Mail info@fukagawatokyo.com ホームページ www.fukagawatokyo.com

